

いっつも にこにこ
笑顔がいいねっ!!
相・福 いきいき 便い
8月生まれの生き生きさん

2019
9月
 No. 66



【お名前】
 木村 和江 さん
 【生年月日】
 昭和13年8月6日
 81歳
 【お住まい】
 相良
 【一言】
 ●生き生きへ来るのが楽しみです。これからも元気よく通いたいです。



おたしおしおし
 おめでとう!!
 寺尾ふみえさんは今回は残念ながら欠席でした



木村和江さんが生まれた昭和13年8月には

●蛇のネクタイ、鮭のハンドバッグ

名古屋 松坂屋に代用品売り場が登場しました。その後こうした売り場は「長期自給体制確保」の為全国に広がって行くことになります。

この頃には代用品は益々増え、竹のスプーンや木のバケツが出来、代用皮革として蛇、サケ、藁（ガマガエル）、食用蛙、鯨などが登場しました。

蛇皮は下駄の鼻緒、バンド、ネクタイ、ハンドバックになり、サケの皮のハンドバッグも登場しました。藁は文字通り藁口や小物袋に、食用蛙は靴、袋物などに利用され、鯨の皮は野球のグローブになって登場しました。また東京魚市場内にはサメの皮を回収して代用皮を作る業者も開業したそうです。

大蔵省は皮革節約の為、下駄履き登庁を認め、鉄道省でも客車装備などを代用品でまかなうことになりました。寝台車や展望車などの贅沢車は廃止され、窓枠はチーク材からエゾ松、ケヤキ、桜などに変わり、腰掛もモヘヤからスフになり、スプリングは海綿に入れ替えられました。

また、商工省でも牛豚の代用に、うさぎ・羊・鯨の食用化を奨励したりした時代でした。



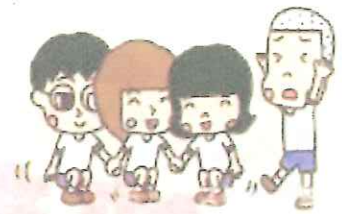
訃報

生き生き仲間の 楊張やゑさんが去る8月8日 お亡くなりになりました
 生き生きクラブの最高齢者であり 今年の3月には99歳の誕生日を生き生きの皆さんで お祝いしたばかりでしたね
 ご冥福をお祈り申し上げます

令和元年度の活動記録(8月)

第9回(8月5日) ◎子供会との交流会

きれいな灯ろうがイッパイ出来ました



参加者数
対象者：21名
協力員：12名
子供会：6名



さあ、始めましょう!!

- 本年度の「子供会との交流会」も、みんなで一緒に灯ろうを作ることになりました。
- 交流会は、高齢者に笑顔と元気をもたらし、また子供たちにとっても思いやりの心を養う機会になり、双方にとって有益なようですね。
- 子供会のみなさん ありがとう。



大分出来てきましたね



子供たちも頑張りました

◎本日のおやつ



パピコ



子供たちが歌を歌ってくれました



最近の子供は肩もみ上手?

第10回(8月19日) ◎手話を楽しもう

今年は「七つの子」をレパートリーに追加します

♪からす なぜ啼くの からすは山に 可愛(かわいい)七つの子があるからよ



参加者数
対象者：22名
協力員：14名

- 「七つの子」は、大正10(1921)年 童謡・童話雑誌「金の船」七月号初出の野口雨情作詞、本居長世作曲の童謡です。
- 余談ですが、「七つ」という言葉が「7羽」を指すのか「7歳」を指すのかは明らかになっておらず、度々論争の種となっているそうです。カラスは一度に7羽もの雛を育てることはなく、7年も生きたカラスはもはや「子」とは呼べないため・・・からです。皆さんはどう思われますか?
- それはさて置き、手話のほうはどうでしょう?簡単ですか?すぐに覚えられそうですか? 頑張ってくださいね。



♪か〜ら〜す〜 なぜなくの〜



西尾教授 本日のテーマは「帰省」についてでした



丸い目をした・・・



良い運動になりました?

◎本日のおやつ



プリンとみかん



● 高い空から秋がしみ込み始めます

去りゆく夏と近づく秋、夏の入道雲に混じって、刷毛で掃いたような巻き雲が高い空に姿をあらわし始め、二つの季節模様を浮かべた雲が行き合って、混然としている空模様を、「行合の空」と言います。季節が行合う空の下では、蝉の声に混じって秋の虫の声が聞こえ始めているはず。言葉の意味から言うと、四つの季節、それぞれの季節の狭間に4回見られることとなりますが・・・普通は夏から秋へとうつりゆく時、ちょうどこれからの季節の空を表現する言葉として使われています。

● 今年の夏は〇〇〇〇！

どんなに、過去に例を見ない気候だと人が騒いでいても、季節はしっかりと帳尻を合わせてくるものです。それを知らせてくれるものの一つが空の表情であり、風の匂いであり、先人たちが残した季節の表情を切り取った言葉たちであるように思います。

それが証拠に毎年相良のお祭りが終わると、もう盛夏の頃の空とは違い、雲の表情などにも多少秋の気配が感じられるようになります。夏と秋、二つの季節が行き合い、暑気、涼気ともに感じられるような陽気になってくるはずですよ。

● 夏の終わりに（自分に）ご褒美を

さて、今日の空に行き合うものは、夏と秋どちらの季節でしょうか？ 真夏の暑さの残る地上から、みなさんも空を見上げてみてください。何か昨日までとは違ったものが見つかるかも知れませんよ。そして行合（ゆきあいの）空を眺めつつ、急がず、焦らず、ゆっくりと、丁寧な深呼吸をしてみませんか。そして今日は、去り行く夏の風を感じつつ美味しい飲み物を自分の為に、用意してあげてみてはいかがでしょうか。

おおしこうちのみつね

夏と秋 ゆきかふ空のかよいちほ かたへすずしき風や吹くらむ 凡河内躬恒

来年は東京オリンピック



福岡区長 増田知英

東京 2020 オリンピック聖火リレー実施市町に牧之原市が選定されました。2020年6月25日にスタートになります。市内ルートは2019年12月に発表予定です。何処を走るか楽しみですね。ところで女性がオリンピックに参加したのはいつだったのでしょうか？ 古代オリンピックのころは、参加することはもちろん、観戦することすら厳禁だったそうです。

競技に参加できるようになったのは近代オリンピックが始まって以後のことでした。1900年のパリ大会で実現されました。種目はテニスとゴルフで、計12名の女性が参加しました。また、日本人女性のオリンピック初参加は、1928年のアムステルダム大会です。

ちなみに、前畑秀子選手が200メートル平泳ぎで日本女性初の金メダルを獲得したのは1936年のベルリン大会のことです。

覚えていますか？NHKの河西アナウンサーが、「前畑がんばれ」を24回 その後「勝った」を14回絶叫して全国民を熱狂させました。もっとも昭和11年のことですから「覚えている」は人少数派ですね。

来年はオリンピックのため7月・8月の祝日も変わるそうです。

暑い中 選手の皆様も大変だと思いますが頑張ってくださいと思います。

私達も 熱中症にならないように ほどほどに「熱く」応援しましょうね。

来年まで頑張るぞー



TOKYO 2020



相良でんでら史話 十五

《 蕉園渉筆 その十一 》 大澤寺十五代住職 今井一光

蕉園渉筆本文 8 雄 鷲

原文

浅場邑民、射殺一雄鷲、其夜懐臥初生児、夢雌鷲来欲奪児
抱住緊急、寤而視之、児已死矣

浅場邑民・・遠州浅羽の民 抱住・・抱き寄せる 寤・目が覚める

読み下し

浅羽村の民が、一羽の雄鷲を射殺す、其夜初生児を懐き臥す、夢の中に雌の鷲来りて児を奪わんと欲す、急いで抱き寄せる、寤(目が覚めて)而之を視ると、児は已に死せり矣

蕉園渉筆には蕉園独特の難解な表現があつて時に長文のものも多数。

その手のものは割愛することにしました。前々回は「鷹」が登場していましたが今回の「雄鷲」は短文ながら蕉園らしい示唆も含まれていて、怖さも感じます。蕉園はこれに何を言わんとしているかですが、単なる因縁譚ではないでしょう。因果応報の結末としては人智を超えて怖いものがありますが、

- ①「鷲」は神聖自然を代表するような生き物で蕉園の敬意がうかがえます。
- ②しかしやはり生き物を「無碍に殺すな」もあるでしょう。
- ③またそういった生きとし生きるものたちにも夫婦の絆が。
- ④そして奪う者は奪われる。
- ⑤鷲は大自然を代表する支配者たる生き物。人の我が物顔の自然への冒瀆はいずれ我が身にかえてくることを示唆しているように感じます。



鷲・鷹・鷩・隼、どこがどう違うんでしょう？

鷲(ワシ)と鷹(タカ)、実は同じタカ目タカ科の同じ鳥の仲間ですが、大きい方をワシ、小さい方をタカとして区別しているようです。

鷩(トビ)も同じタカ目タカ科に属しています。人間に最も身近なタカといえますね。

大きさの順は鷲(ワシ) > 鷩(トビ) > 鷹(タカ) > 隼(ハヤブサ)といわれています。

さて、隼(ハヤブサ)なのですが、元はタカ目の中でも最も小型に位置づけられていたのですが、日本鳥学会は2012年にハヤブサを猛禽類からインコやスズメの仲間へと分類変更しています。それに伴い「ハヤブサ目ハヤブサ科ハヤブサ属」に分類された鳥類です。日本ではシロハヤブサやチゴハヤブサが知られています。

ハヤブサとは「最も凶暴なインコ」なのでしょうか？



凶暴なインコ？

これからの いきいき予定

- 9月 9日：公民館まつり用作品作り
- 10月 8日：野外昼食会
- 10月13日：相良区公民館まつり
- 10月21日：歴史教室「でんでら史話」



皆様のご意見や思い出話をお待ちしております

相・福 いきいきだより
笑顔がいいねっ！！

2019年9月2日号

(通算第66号)

発行

相良・福岡 生き生きクラブ